# 6-27　実践協力校における実践

## 事例㉗　山北町立川村小学校（６年・総合的な学習の時間）
## 「山北町の未来のために」
## 山北町立山北中学校（３年・総合的な学習の時間）
## 「私たちが愛する山北の未来を、よりよいものへ！」

### Ⅰ　町全体における取組

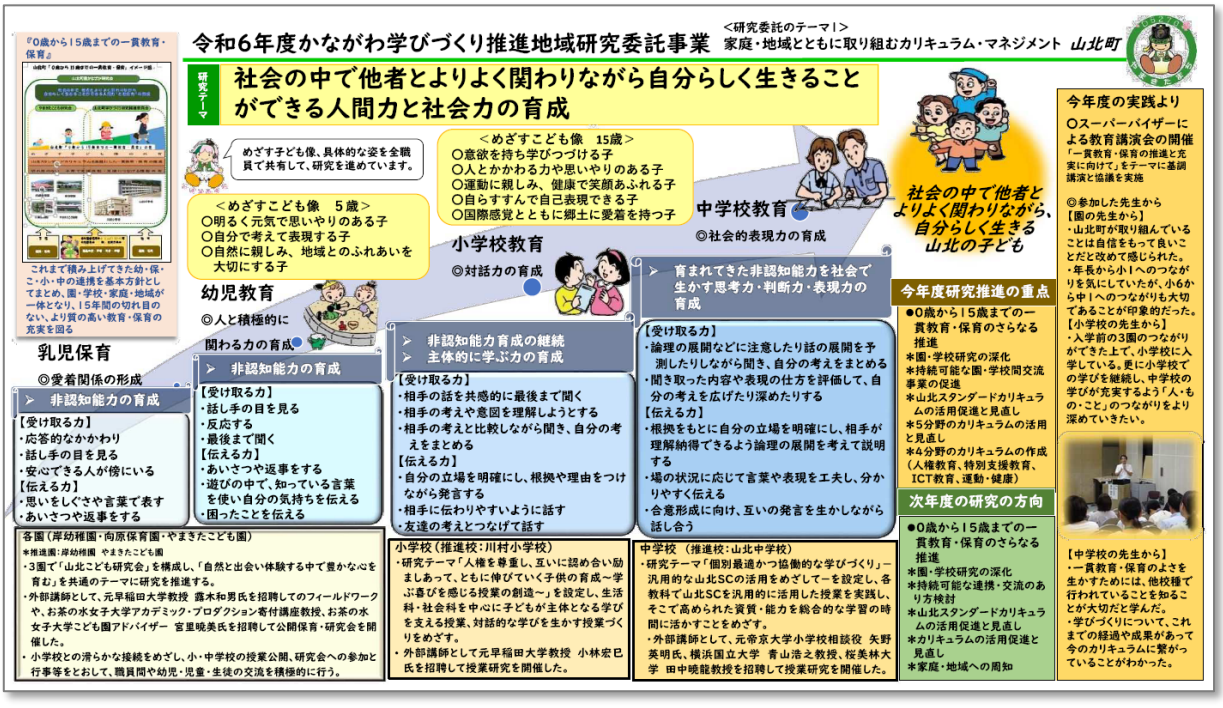
山北町では、「０歳から 15 歳までの一貫教育・保育」を掲げ、幼稚園・保育園・こども園から小学校、中学校の義務教育段階まで、子どもの発達段階に応じた教育・保育を行うとともに、それぞれの園・学校の教職員が「めざす子ども像」を共有し、学びの連続性を意識した系統的な教育に取り組んでいる。



「政治的教養を育む教育」の実践にあたっても、小・中学校の授業担当者が町教育委員会と協議を重ね、義務教育段階における指導の系統性や、山北町がめざす具体的な姿として「社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きること」を意識しながら、子どもたちが小・中学校それぞれの発達段階のなかで、「町の課題を考える」「町をよりよくする」「町の未来を考える」という取組を行った。

※山北町は県教育委員会が実施している「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」にも取り組んでいる。下の資料は同事業における山北町作成の研究のまとめ資料。（拡大版はあとのページにも掲載）

神奈川県ホームページ「かながわ学びづくり推進地域の取組について」（https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/manabi/torikumi/toppupeji.html）




**【中高の連携と町全体としての取組】**

本取組では、小・中学校の連携に加え、高等学校との連携も視野に入れた実践を行いました。山北町内にある県立山北高等学校では、総合的な探究の時間の一環として、地域課題をテーマとした課題解決型学習を推進しています。生徒たちはフィールドワーク等を行いながら、「未来探究」に取り組み、その成果を「地域との協働による報告会」で町に提案しました。この報告会には中学生も参加し、高校生の提案を聞くとともに、大人や高校生と一緒に意見交流を行うなど、町全体として取組に参加しています。

その他にも、中高連携の取組の例として、中学生と高校生が地域の清掃活動を一緒に行うなど、子どもたちが地域社会の取組に参画し、また、子どもたちを地域で育む取組が町全体で行われています。

## Ⅱ　取組の様子１（山北町立川村小学校・６年　総合的な学習の時間）

### ①　単元計画

１．単元名　　「山北町の未来のために」（子ども議会にむけた提案）

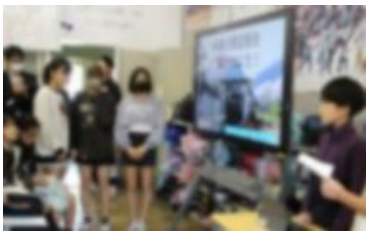
２．単元の目標

・自分たちの住む町の姿をよく見つめ、現状や課題を捉えながら、住みよい町づくりのために、自分たちの夢や希望を提案することにより、主体的に社会に参画する意識を高める。

・よりよい山北町をつくるためにできることを考えたり、他者の考えを聞いたりして、自分の考えを再構築し、話し合い活動での発言力や行動力を身につける。

**ポイントになる主な学びのプロセス** → **・他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**
**・主体的に社会に参画する**

３．指導計画（６次［22 時間］扱い）

| 小単元時間 | ねらい（◇）・おもな学習内容（◆） |
|---|---|
| １次（１時間） | ◇子ども議会について知り、理解を深める。<br>◆１学期の政治の学習を想起する。（山北町にできたスケートパーク等）<br>◆昨年度のＤＶＤを観て、子ども議会について知る。 |
| ２次（１時間） | ◇山北町の魅力と現在の現状や課題について考える。<br>◆これまで学習したことや生活してきたことを踏まえ、山北町の「よいところ」と「課題」について話し合う。 |
| ３次（６時間）<br><br>本時 6時間目 | ◇自分たちが願う、山北町の未来の姿について考える。<br>◆自分たちが大人になったときの山北町がどうなっているか、どうなってほしいか話し合う。<br>◆山北町の『誰』の未来のために提案をするか考える。<br>◆山北町の広報や山北町総合計画等を調べる。<br>◆山北町役場で働く人や商工会、飲食店等、町で暮らす人に取材に行く。<br>◆取材に行って分かったことや自分たちのグループの提案をまとめる。<br>◆山北町の未来の『〇〇』のために、各グループのアイデアを交流し合い、感想を伝え合う活動を通して、よりよい考えにつなげる 。<br> |
| ４次（２時間） | ◇子ども議会に向けて提案したい内容を決める。<br>◆各グループ（計６グループ）の提案を発表するプレゼン大会を行う。<br>◆プレゼン大会後、提案内容を決定する選挙を行い、６つから３つに絞る。 |
| ５次（６時間） | ◇子ども議会に向けて、提案資料を作る活動をとおして、自分たちの考えをより深める。<br>◆提案内容について、より詳しく調べる。<br>◆提案文や資料を作る。<br>◆提案文を山北中学校の生徒に送り、中学校の学習に生かしてもらう。（小中連携） |
| ６次（６時間） | ◇子ども議会に参加し、提案を発表することにより、主体的に社会に参画する意識を高める。<br>◆子ども議会のリハーサルをする。<br>◆子ども議会の本番で提案を発表する。<br>◆子ども議会の振り返りをする。 |

## ② 本時の様子

○ 本時の目標

各グループの調べている内容を説明し、相談したり、アドバイスを伝えたりする活動を通して、山北町の未来のために自分たちができることを、より具体的に考える。

○ 本時の展開

<table>
<tr><th>過程</th><th>活動の流れ</th><th>ポイントになる<br>学びのプロセス</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>○取材してきた方の願いを振り返り、本時のめあてを確認する。<br><br>今日は発表会ではなく、「相談会」です。<br>それぞれのプレゼンにアドバイスをし合おう！<br><br><br><br>「山北の未来の 『○○』のため」に自分たちの提案をランクアップさせよう！<br><br>＜ 子どもたちが考えたテーマ ＞<br>A 『 観光客 』 D 『 移住者 』<br>B 『 子育て 』 E 『 子ども 』<br>C 『 流鏑馬の後継者 』 F 『 商店街 』</td><td></td></tr>
<tr><td>展開<br>①</td><td>○自分たちが取材したり、調べてきたりした内容をグループごとに発表し、それに対して感想やアドバイスを伝える。<br>★自分の考えを広げる。<br>★お互いの意見を聞き合い、「よりよい案」や「こんな情報があったらよい。」等、より具体的に考えられるようにする。<br><br><br>観光客を増やすために、山北ならではのでごにぃ（D52）を生かしたグッズや山北の食材を使った弁当を作ります！<br>何を入れたらいいかな…。<br><br>山北の名物のみかんとか、「八丁やまめ」を入れたらどう？<br><br><br><br>山北の伝統である流鏑馬をどうやったらもっと広められるかな…。ＰＲ動画を作るなら、どんな内容がよいと思いますか。<br><br>どんな映像がいいかなぁ…ＢＧＭもあるといいな。<br><br><br>もらったアドバイスをもとに、今考えてるアイディアをランクアップしてみよう！<br><br><br><br>こんなアイディアはどう？<br>それいいかも！ありがとう！</td><td>目指す子どもの姿<br>山北町で暮らす人々の思いや願い、他者の意見など、複数の考えと現状を関連付けたり、比較したりしながら、自分の考えを広げたり、深めたりする姿。<br><br>ポイント1<br><u>他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する</u><br>発表に対して意見をもらったり、発表者が相談することを通して発表の質を高めることをねらいとする。</td></tr>
</table>

| | | |
|---|---|---|
| まとめ | ○感想やアドバイスをもとに自分たちのグループの提案内容について振り返る。<br><br>もらった感想やアドバイスを生かして、「付け足したいこと」「改善したいこと」「なるほどと感じたこと」等を振り返ろう！<br>○グループで振り返った内容を紹介する。 | <br>このアドバイスを生かしてみようか！ |

**ポイント1**

**子ども議会にむけた再構築のきっかけ「ランクアップタイム」**

本時の位置づけは、子ども議会に向けたプレゼンの単なる中間発表ではなく、提案内容を再構築して、よりよくすることを目的とした時間であり、子どもたちのことばから「ランクアップ」の時間と表現している。

提案を聞いた他のグループの子どもたちも、提案グループからの相談に応じたり、アドバイスを伝えたりすることで、自分たち以外の提案からも、町の課題を自分のこととしてとらえるきっかけにもなっている。

## ③　研究協議

1．研究協議のテーマ

「子どもたちが自分の考えを再構築するため、この後どのような手立てが考えられるか。」

2．成果と課題、参観者の意見

成果

・それぞれの提案の中に、地域への愛着が感じられた。そのため、子どもたちがそれぞれの提案に対して自分のこととして考えることができていた。
・問いの立て方が「町の○○のために」という具体的な対象を設定していたため、子どもたちが自分たちの住む町の課題をより具体的にイメージすることができていた。

課題

・子どもたちの提案が本当にねらいに沿ったものになっているかを確認する必要があり、活動の中で単元の目標・本質に立ち返るきっかけがあることが意見の再構築につながると考えられる。
・教員側に子ども議会までのイメージマップがあり、子どもと共有することで、子どもたちが提案内容を再構築していけることにつながると考える。
・「再構築」の定義は広げることなのか、深めることなのか、それによって子どもたちの意見も変わってくると考えられる。テーマによってはアドバイスがしにくいものもあり、それに関する知識も必要となる。
・「こうなったらいい」という理想で終わるのではなく、実際の行動につなげる必要がある。

（授業でのグループ発表と研究協議の様子）





## ④　事後の取組

「ランクアップタイム」で仲間からもらったアドバイスをもとに提案内容を再構築し、子ども議会で提案するテーマについて子どもたちが投票を行った。その結果、６つのテーマのうち『観光客』『商店街』『流鏑馬』の３つが当該クラスの提案内容に決まった。なお、子ども議会で提案しないことになったテーマの班の子どもたちがそれぞれ、自分が協力しようと思う班を決めて子ども議会の準備に取り組んだ。

２月に行われた子ども議会の当日には、実践協力校の６年生２クラスから代表者が合計６つのテーマについて町への提案を行い、各提案に対して、町長が答弁を行った。



**＜　子ども議会当日の提案テーマ　＞**

① 観光客のために今、できること
② 観光客を増やすために
③ 未来の商店街を輝かせよう
④ 山北町の魅力を知ってもらうために
⑤ ワクワクする商店街
⑥ 山北町の大切な伝統のために



町の観光客を増やすために、町の特産品を使ったＤ52（でごにぃ）弁当を作ることや、Ｄ５２を実際に町を通る線路で走らせる計画を提案します！

お弁当をイベントで販売できれば、多くの人に町の魅力を知ってもらうことにつながるので、町の商工会や商店の方と連携・相談してみたいと思います。Ｄ５２を実際の線路で走らせることについては、車両の重さ等の課題があるためできませんが、現在公園に設置されている線路の延伸を検討しています。





町の魅力を知ってもらい、商店街を活性化させるために、町のイベントや商店街の朝市で、子どもが「でごにぃのお絵かきせんべい」や「湘南ゴールドのフルーツあめ」などの屋台を出店することを提案します！

提案内容は、商店街の魅力を知ってもらうには大変よいことだと思いますが、衛生面など難しい課題もあると思います。出店が可能かどうかを含めて、町のイベントや朝市の主催者に働きかけていきたいと考えています。





町の伝統文化である流鏑馬を広めるため、準備の様子や当日の盛り上がりを伝えるＰＲ動画を作成することを提案します！

動画の作成は、大きなＰＲ効果につながりますが、限られた予算の中で民間会社にお願いしての作成は難しい現実があります。町のＳＮＳを活用して動画や情報の発信を行えるよう、積極的に取り組んでいきたいと考えます。



取組を終えた児童の振り返り

○　この学習を通して、未来の山北の商店街や山北町全体がよりにぎやかになってほしいと本気で思うようになった。
○　生まれ育った山北町がより好きになったし、実際に議場で議会に参加できたことは、とても貴重な経験になった。
○　自分たちの提案がこれからの山北を変えるかもしれないと思うとワクワクした。また、実際に様々なところに取材に行き、その人たちの思いや願いを聞くことができた。自分たちだけじゃなく、その人たちの力になりたいと思った。

## Ⅲ　取組の様子２（山北町立山北中学校・３年　総合的な学習の時間）

### ①　単元計画

１．単元名　　「私たちが愛する山北の未来を、よりよいものへ！」

２．単元の目標

・中学校社会科での学びを踏まえて、山北町の人口を増やすための方策を検討し、提案する。

**ポイントになる主な学びのプロセス** → **・課題について考える**
**・主体的に社会に参画する**

３．指導計画（３次［12 時間］扱い）

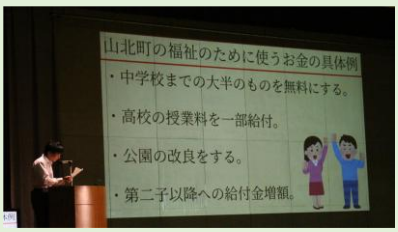
| | ねらい（◇）・おもな学習内容（◆） |
|---|---|
| １次 | ◇よりよい山北町をめざして、社会科での学習を生かして、一人ひとりが故郷への「願い」をもつ。<br>◆「山北町をどうしたいか？」という問いに答え、一人ひとりが故郷にもつ「願い」を自覚する。<br>社会科で学んだこと …【地方自治】【地方分権】<br>◆「自分たちが考えた願いが、町民の意思にそぐわなかったらどうなるか？」という問いに答え、町長が取り組む政策は、町民の大多数の「願い」である必要があることに気づく。<br>社会科で学んだこと …【二元代表制】【直接請求権】<br>◆「小学生が子ども議会に提案した内容は、山北町の財政的には実現可能か？」という問いに対して、山北町の予算書等を参考にしながら、「願い」と「実現可能性」を比較検討する。（小中連携）<br>社会科で学んだこと<br>…【地方財政】【地方税】【地方交付税交付金】【国庫支出金】【地方債】 |
| ２次 | ◇「願い」を基に、山北町で実現したい取組を一人ひとりが調査を踏まえて、決定する。<br>◆他自治体の成功事例や山北町の財政等の調査を通じて、実現可能性を踏まえた取組を考える。<br>◆中学生として、「願い」を実現するために、山北町にできることは何があるか考える。<br>町がもつ豊かな自然環境を生かして、農業を切り口に考えてみよう！<br><br> |
| ３次 | ◇「願い」を実現するための取組の必要性や実現可能性を、他者に伝わるよう表現する。<br>◆１人１台端末を用いて、「願い」を実現するための取組の必要性や実現可能性をまとめる。<br>◆まとめた内容を、中学１・２年生や小学生に伝わるように発表の準備を進める。<br>◆中学１・２年生や小学生に対して、まとめた内容が伝わるよう発表する。**（本時）**<br>◆ここまでの学びを振り返る。 |

## ② 本時の様子

○ 本時の目標

山北町の未来をよりよいものにしていくため、取り組むべき方策や中学生ができることについて調べたことや考えたことを、中学１・２年生や小学生が理解できるように発表する。

○ 本時の展開（２時間扱い）

<table>
<tr><th>過程</th><th>活動の流れ</th><th>ポイントになる<br>学びのプロセス</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>○取組の趣旨について確認する。<br>３年生の発表を聞くことで、１・２年生もそれぞれの学年での取組と関連付けて、山北町の未来のためにできることを考えよう。<br></td><td></td></tr>
<tr><td>展開</td><td>山北町の未来をよりよいものにするためには？<br>○３年生の代表グループがまとめた内容を発表する。<br>【観光】「山北スマートインターチェンジの効果的な活用」<br><br><br>【漁業】「空き校舎等を活用した鮎の養殖とブランド化」<br><br><br>【農業】「豊かな山を経済成長の基盤にする山農革命」<br><br>【福祉】「ふるさと納税の活性化をとおした福祉の充実」<br><br><br>○それぞれの発表を聞いて、アイディア、実現可能性、費用対効果の視点から感じたことや考えたことを振り返り用紙に記入する。<br><br>廃校を活用するアイディアは面白いけど、鮎をブランド化するためにはほかの品種と差別化を図る必要があるなぁ。<br>実現可能性はどうなのかな？財源はどこから確保するのだろう？<br>デメリットを逆手にとって活用することもできるんだ。解決方法を明確にしているのがよかったな。</td><td><u>主体的に社会に参画する</u><br>よりよい山北町のために、中学生としてできることに言及し、社会に参画しようとすることができているか。<br><br>目指す子どもの姿<br>・山北町の未来について真剣に考えたことをまとめ、提案性のある発表をすることができる。<br><br>ポイント2<br><u>課題について考える</u><br>山北町の課題について真剣に考え、実現可能性を踏まえた提案をすることができているか。また聞く側はそれぞれの学年の取組を基に考えることができているか。</td></tr>
</table>

| | | |
|---|---|---|
| まとめ | ○参観している生徒から、発表を聞いた感想等を伝える。 | |
| 授業後 | ○各学級で３年生の発表を踏まえて振り返りを行う。<br>※振り返りの進め方は、グループでの意見交換、学級全体で話し合うなど、学年ごとに工夫して進める。<br> | |

ポイント2

**発表者以外の生徒も主体的に社会に参画するための工夫**

山北中学校では、１年生は町の現状や課題を「調べる」、２年生は町の住民や企業等の方々にインタビューを行うなどして、自分たちの考えを「深める」、それらの活動を踏まえて、３年生では町の課題を解決し、よりよい町にするために自分たちができることを「表現する」という学習のステップを系統的に行っている。そのため、本時の３年生の発表について、１・２年生もそれぞれの学習の段階を踏まえて評価し、自らの学習につなげて考え、主体的に社会に参画する意識を育むことにつながると考えられる。

発表会後の生徒の振り返り

○　大人になっても町に住みたいなんて考えたことがなくて、町の未来についても考えたことがなかったけど、今回たくさん調べて考えて、町の課題や町をよりよくするための手立てを考えられてよかった。
○　今回の探究を通して、町の魅力になるものがあるのに、それを活かせていないのではないかと感じた。
○　（発表したグループは）みなそれぞれちがう提案だったから、それだけ町は活性化することができると思った。

## ③　研究協議



１．研究協議のテーマ
「生徒たちが課題について考え、主体的に社会に参画しようとする姿が見られたか。」
２．成果と課題、参観者の意見

成果

・発表グループが理想に終始せず、他の市町村との比較を行い、説得させる根拠や資料をそろえて、特に財源の確保に目を向けていることで、実現可能性まで考えることができていた。
・振り返りの場面では、特に２年生が発表内容と今まさに取り組んでいる自分の考えとを比較して振り返りを行っていた。

課題・意見

・提案の最終的な行動の主体が生徒自身ではないものがあったため、第１次で考えた「町をどうしたいか」という問いに立ち返り、「自分は何ができるか」という視点が提案に含まれるとよいとより社会への参画の意識が育まれると考える。
・発表されなかった案を２年生に見せるなど、これまでの取組を生かせる機会があるとよい。また、生徒がより主体的に活動に参加できるように、全体での発表ではなく、各教室でポスターセッション形式の発表にするなど、発表者と聞く側の生徒のやり取りができる形も考えられる。
・３年生の発表にＩＣＴを活用するなどして小学校６年生も聞くことで、小中連携をさらに図ることができる。

## ④　事後の取組

中学校では、３年生の発表を踏まえ、１・２年生が総合的な学習の時間における探究活動を続けている。２年生の取組では、探究の成果発表会を１年生が参観するなど、学年間で連携した取組を継続して行っている。

また、３年生の発表会代表以外の生徒の提案についても、次年度の探究活動の参考として活用することが計画されるなど、先輩から後輩へ、「町への想い」が受け継がれながら、生徒たちが自分たちの住む町の未来を考え、社会参画の意識を育む取組が今後も続いていく。

# 令和6年度かながわ学びづくり推進地域研究委託事業

<研究委託のテーマ1>
家庭・地域とともに取り組むカリキュラム・マネジメント　山北町

## 研究テーマ　社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができる人間力と社会力の育成

『0歳から15歳までの一貫教育・保育』



これまで積み上げてきた幼・保・こ・小・中の連携を基本方針としてまとめ、園・学校・家庭・地域が一体となり、15年間の切れ目のない、より質の高い教育・保育の充実を図る

めざす子ども像、具体的な姿を全職員で共有して、研究を進めています。

＜めざすこども像　5歳＞
○明るく元気で思いやりのある子
○自分で考えて表現する子
○自然に親しみ、地域とのふれあいを大切にする子

＜めざすこども像　15歳＞
○意欲を持ち学びつづける子
○人とかかわる力や思いやりのある子
○運動に親しみ、健康で笑顔あふれる子
○自らすすんで自己表現できる子
○国際感覚とともに郷土に愛着を持つ子



社会の中で他者とよりよく関わりながら、自分らしく生きる山北の子ども

### 乳児保育
◎愛着関係の形成

➢ 非認知能力の育成

【受け取る力】
・応答的なかかわり
・話し手の目を見る
・安心できる人が傍にいる
【伝える力】
・思いをしぐさや言葉で表す
・あいさつや返事をする

### 幼児教育
◎人と積極的に関わる力の育成



➢ 非認知能力の育成

【受け取る力】
・話し手の目を見る
・反応する
・最後まで聞く
【伝える力】
・あいさつや返事をする
・遊びの中で、知っている言葉を使い自分の気持ちを伝える
・困ったことを伝える

### 小学校教育
◎対話力の育成



➢ 非認知能力育成の継続
➢ 主体的に学ぶ力の育成

【受け取る力】
・相手の話を共感的に最後まで聞く
・相手の考えや意図を理解しようとする
・相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる
【伝える力】
・自分の立場を明確にし、根拠や理由をつけながら発言する
・相手に伝わりやすいように話す
・友達の考えとつなげて話す

### 中学校教育
◎社会的表現力の育成



➢ 育まれてきた非認知能力を社会で生かす思考力・判断力・表現力の育成

【受け取る力】
・論理の展開などに注意したり話の展開を予測したりしながら聞き、自分の考えをまとめる
・聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりする
【伝える力】
・根拠をもとに自分の立場を明確にし、相手が理解納得できるよう論理の展開を考えて説明する
・場の状況に応じて言葉や表現を工夫し、分かりやすく伝える
・合意形成に向け、互いの発言を生かしながら話し合う

### 今年度研究推進の重点
●0歳から15歳までの一貫教育・保育のさらなる推進
＊園・学校研究の深化
＊持続可能な園・学校間交流事業の促進
＊山北スタンダードカリキュラムの活用促進と見直し
＊5分野のカリキュラムの活用と見直し
＊4分野のカリキュラムの作成（人権教育、特別支援教育、ICT教育、運動・健康）

### 次年度の研究の方向
●0歳から15歳までの一貫教育・保育のさらなる推進
＊園・学校研究の深化
＊持続可能な連携・交流のあり方検討
＊山北スタンダードカリキュラムの活用促進と見直し
＊カリキュラムの活用促進と見直し
＊家庭・地域への周知

### 今年度の実践より
○スーパーバイザーによる教育講演会の開催
「一貫教育・保育の推進と充実に向けて」をテーマに基調講演と協議を実施

◎参加した先生から
【園の先生から】
・山北町が取り組んでいることは自信をもって良いことだと改めて感じられた。
・年長から小1へのつながりを気にしていたが、小6から中1へのつながりも大切であることが印象的だった。
【小学校の先生から】
・入学前の3園のつながりができた上で、小学校に入学している。更に小学校での学びを継続し、中学校の学びが充実するよう「人・もの・こと」のつながりをより深めていきたい。



【中学校の先生から】
・一貫教育・保育のよさを生かすためには、他校種で行われていることを知ることが大切だと学んだ。
・学びづくりについて、これまでの経過や成果があって今のカリキュラムに繋がっていることがわかった。

各園（岸幼稚園・向原保育園・やまきたこども園）
＊推進園：岸幼稚園　やまきたこども園
・3園で「山北こども研究会」を構成し、「自然と出会い体験する中で豊かな心を育む」を共通のテーマに研究を推進する。
・外部講師として、元早稲田大学教授　露木和男氏を招聘してのフィールドワークや、お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄付講座教授、お茶の水女子大学こども園アドバイザー　宮里暁美氏を招聘して公開保育・研究会を開催した。
・小学校との滑らかな接続をめざし、小・中学校の授業公開、研究会への参加と行事等をとおして、職員間や幼児・児童・生徒の交流を積極的に行う。

小学校（推進校：川村小学校）
・研究テーマ「人権を尊重し、互いに認め合い励ましあって、ともに伸びていく子供の育成～学ぶ喜びを感じる授業の創造～」を設定し、生活科・社会科を中心に子どもが主体となる学びを支える授業、対話的な学びを生かす授業づくりをめざす。
・外部講師として元早稲田大学教授　小林宏巳氏を招聘して授業研究を開催した。

中学校（推進校：山北中学校）
・研究テーマ「個別最適かつ協働的な学びづくり」ー汎用的な山北SCの活用をめざしてーを設定し、各教科で山北SCを汎用的に活用した授業を実践し、そこで高められた資質・能力を総合的な学習の時間に活かすことをめざす。
・外部講師として、元帝京大学小学校相談役　矢野英明氏、横浜国立大学　青山浩之教授、桜美林大学　田中暁龍教授を招聘して授業研究を開催した。



（参考資料）令和６年度かながわ学びづくり推進地域研究委託事業　研究のまとめ